

令和3年度最終処分場維持管理技術研修会 ～オンライン～

【実施機関】 公益社団法人全国産業資源循環連合会

① 目的

- ・この研修会は、最終処分場に関わる方を対象として、最終処分場を取り巻く最新の情報及び最終処分場の維持管理に関わる専門的な情報をご提供します。
- ・本年度の研修会は、最終処分場の早期安定化にとって非常に重要な要因である雨水対策を主なテーマとし、最近、多発している豪雨時における対策等について解説します。

② 開催日時

2日間コース

1日目：2021年 **11月10日（水）** 13：00～16：50
2日目：2021年 **11月11日（木）** 13：00～16：40

③ 開催方法

ZOOMウェビナーによる視聴型のオンライン配信。

※ 研修会資料のダウンロード、事前の質問、研修会の受講方法は、ご入金後に発行する「研修会マイページ」に掲載いたします。

④ 講義概要

裏面をご参照ください。

⑤ 定員

制限なし

⑥ 参加条件

- ・2日間（11月10日、11日）の講座に参加できる方
- ・インターネット回線が安定した環境下で、PC等でZOOMを使用できる方

⑦ 受講上の 注意点

- ・本講義の講義資料および配信映像の録画、録音、撮影など複製ならびに二次利用は一切禁止です。上記が確認された際は、弊社のサービスの利用停止と、法的措置をとらせていただく可能性があります。

⑧ 受講料

28,600円（税込、通信費等は自己負担）

※ オンライン研修会への接続はおひとりにつき1端末に限らせていただきます。

- ① 10月21日（木）の17時までに、キャンセルのご連絡をいただいた場合は、返金にかかる手数料1,000円を差し引いた額をご返金いたします。
- ② ①以降のキャンセルはご返金できません。

⑨ 申込方法 申込期日

（公社）全国産業資源循環連合会のホームページの本研修会専用ページ
（<https://www.zensanpairen.or.jp/最終処分場維持管理研修会/>）からお申込ください。

申込受付期日：**10月8日（金）**（入金〆切日 10月15日（金））

⑩ 問合せ先

（公社）全国産業資源循環連合会 〒106-0032 東京都港区六本木3-1-17 第2ABビル4F
最終処分研修会担当 e-mail：event@zensanpairen.or.jp

日程	講義内容	講師
1日目 11月10日 (水)	<p>「最終処分場を取り巻く課題と方向性」</p> <p>最終処分場に関わる方に必須の知識として、最終処分場に関する規制の動向（廃止、POPs廃棄物、水銀廃棄物、特定産業廃棄物など）、災害廃棄物処理における役割及び実務上の注意事項、その他最終処分場に関する課題等についてご講演いただきます。</p>	<p>環境省 廃棄物規制課 田中敏明 氏</p> 
	<p>「やさしい安定化の科学」</p> <p>最終処分場の早期安定化を実現するためには科学的な知識が不可欠です。有機物を埋め立てた最終処分場について、その安定化に関与する物理・化学・生物学的な諸現象と、安定化を促進するための維持管理の手法との関係について、わかりやすくご講演いただきます。</p>	<p>国立環境研究所 山田正人 氏</p> 
	<p>「準好気性埋立構造の特徴と適正管理の実施例」 －福岡市における最終処分場技術開発の経緯とその成果－</p> <p>わが国の標準的な埋立構造とされている準好気性埋立構造は、福岡大学と福岡市が協力して実用化が図られた技術です。 この技術は、埋立地の底部に設けた集排水管により廃棄物層の滞水を防止するとともに、熱対流により埋立地内部に空気を流入させるため施工も維持管理も簡易です。 この構造が確立されるまでの経緯と、その機能を発揮させるための維持管理上の工夫や技術の継承についてご紹介いただきます。</p>	<p>福岡市 環境局 木元輝彦 氏</p> 
2日目 11月11日 (木)	<p>「豪雨時における浸出水の流出と汚濁物の洗い出し特性およびその対策」</p> <p>最終処分場の安全、安心を提供するためには、近年、多発している豪雨対策抜きには考えられません。特に、内部滞水に伴う浸出液の発生量の予測や水質への影響などのリスクを認識した維持管理が必要です。 本講義では「埋立地の内部滞水の特性」に焦点を当て、滞水時の浸出液の流出特性、滞水した廃棄物容量と浸出液の保水量の予測、浸出液の水質特性及びそのリスクを最小限にするための考え方などについて、実例を交えてご講演いただきます。</p>	<p>福岡大学 柳瀬龍二 氏</p> 
	<p>「豪雨時における最終処分場の適正管理のためのモニタリング」</p> <p>最終処分場が適切に維持管理され、処分場を構成する施設が適正に機能を発揮していることを確認するためには、モニタリングが非常に重要です。 通常時及び豪雨時におけるモニタリングの時期やサンプリング方法などの考え方、分析結果の評価方法等について実際のデータ等を交えてご講演いただきます。</p>	<p>福岡大学 田中綾子 氏</p> 
	<p>質疑応答（事前質問への回答）</p> <p>事前にご提出いただいた質問への考え方をご紹介します。</p>	